

評価委員会総合評価

研究課題名：海洋中炭素循環変動の実態把握とメカニズム解明に関する研究

評価委員

委員長：田中正之

委員：蒲生俊敬、中島映至、田中 佐、田中 博、渡邊朝生

評価年月日：平成 25 年 11 月 14 日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、海洋中の炭素循環変動の実態把握と変動メカニズムの解明に向けて、長期変化傾向を検出するための観測・品質管理手法の開発を目的としている。

地球温暖化の実態把握のためには、海洋中の二酸化炭素の定量的な動態把握は極めて重要であり、海洋生態系への直接の影響が懸念される海洋酸性化と併せて社会的な関心、研究推進への要請がある。

本研究により、モデル開発、観測装置の改良と観測データの取得、データベースの作成等が着実に進められ、海洋中炭素循環変動の実態把握とメカニズム解明に成功し、海洋酸性化や年々変動を実証したことを評価する。

また、開発された観測技術は、気象庁の現業業務で活用されているほか、国際協力による関連プロジェクトにも大きな貢献が認められる。さらに、本研究の成果を国内外に広く発信し、様々な波及効果をもたらしていることも高く評価できる。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定と研究体制のもとに実施され、当初想定した成果が得られた優れた研究であったと評価する。

今後も引き続き、モニタリングの着実な実施に資する観測技術、データ解析手法の開発、変動メカニズムの解明に取り組み、地球温暖化、海洋酸性化の正確な将来予測に貢献することを期待する。